

枝豆・黒豆・大豆・小豆

使用産地：山形だだちゃ豆・新潟茶豆・千葉枝豆・兵庫、岡山黒豆、北海道

使用目的：マメ科の連作障害による微生物性の低下防止回復と団粒構造形成のための腐植形成

使用方法：①収穫後に残根、残渣などの有機物とともに全層混和

②元肥とともに全層混和

マメ科作物の連作の場合

散布時期：収穫後すぐに投入

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMPSS 5～10袋以上／10a

使用方法：残っている土中の残根・残渣などの有機物とともに全層混和

※微生物層の改善のために堆肥等の有機物は必須です。

効 果：毎年投入することで深くやわらかい土になっていき、排水性も改善していきます。

そ の 他：収穫後は水分もありますので、出来るだけ早くコフナを投入し微生物を繁殖。

他の作物との輪作（水田→麦→大豆）の場合

散布時期：前作収穫後できるだけ早く投入。遅くとも播種までの10日～2週間前までに

使用数量：コフナ1号もしくはコフナMP 7～10袋以上／10a

使用方法：元肥とともに全層に混和

注 意 点：未完熟の堆肥と同時には施用しないで下さい。



転作田での大豆栽培

水田は基本的に水持が良くなるように土壌が改良されています。逆に大豆は水はけをよくする必要があります。そのために、コフナで早急に腐植を作り排水性の良い団粒構造の土地に土壌改良する必要があります。そのため、稲作後・麦後などでは、確実にワラと同時にコフナをすきこんで下さい。

大豆・黒豆の連続栽培

現在、兵庫や岡山では黒豆が盛んに栽培されていますが、堆肥の投入が少ない場合、4作目以降は、小粒化していきます。（京都農総研・環境部、近中四農研センター・野菜部・畑土壌管

②岡山県黒豆

黒豆は同一圃場にて連作を行うと年々収量が減少してくるとされています。この原因の一つに微生物相の減少が上げられており、良質な堆肥を散布すると減収が軽減されるとなっております。コフナは多種多様な微生物を含んでおり、土壌中で多くの微生物を繁殖させることにより微生物相の改善に寄与します。

あわせて、コフナを使用することにより作土層を深くする効果も上げられており、深く根が行く（生える）ことにより旱魃にも強くなることが期待されます。

散布時期：遅くとも播種・定植10日から2週間前までに（早期に）

使用数量：コフナMPSS 5袋/10a

使用方法：堆肥とともにすき込み



2016年10月撮影

岡山県勝央町

収穫量280kg

県知事賞受賞



2017年9月

この年も順調に！

（一部開花時期の降雨の影響を除く）

